

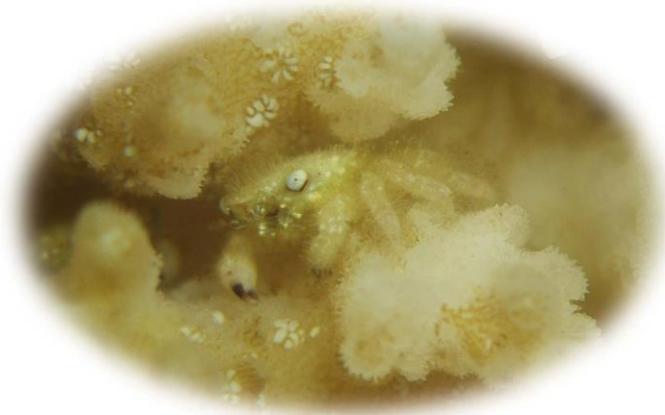


Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。 <http://www.amsl.or.jp>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●食べているのか、助けているのか？

ーサンゴの病気とキモガニー

朝晩はずいぶん涼しくなってきました。このまま冬に向かっていくのでしょうか。海の水温も 26℃前後に下がってきました。この夏は白化現象で慶良間のサンゴも弱ってしまいましたが、生き残ったサンゴはようやく回復に向かえることでしょう。

海の中を見てみると、まだ部分的に白化したサンゴがけっこういますが、それ以外の健康ではないサンゴもちらほら目につきます。つい先日クシバルの礁池の中でテルピオスにおおわれたサンゴを 2、3 個見つけました。テルピオスは、去年アムスルだより (No.136) でお話したサンゴをおおい殺すと考えられているカイメンです。これまでに渡嘉敷島でまとまって見つけていますし、マジノハマでも確認していますが、さらに別の場所でも見つかったわけです。もっと言うと、マジノハマでテルピオスに覆われている

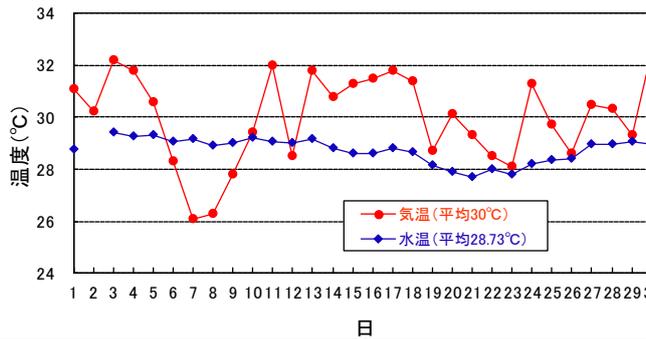
サンゴの数も、きちんと調べたわけではありませんが、1年前には数個だったのが、最近は十数個かそれ以上に増えてきたようです。大きな悪影響を及ぼすかどうかはわかりませんが、心配なところです。

慶良間の海でもう一つ心配なのは、ブラックバンド病と呼ばれるサンゴの病気です。これは、サンゴの群体の端から少しずつ病気の部分が広がり死んでしまう病気ですが、その広がっていく病気の部分が黒く（正体はシアノバクテリアの塊です）、まるで黒い帯がサンゴを殺していくように見えるので、この名前があります。特に被覆状コモンサンゴでよく見られます。この病気はずいぶん前から慶良間のいくつかの場所で確認されているのですが、日本大学の和田さんの調査範囲では、2010年から2011年にかけて、この病気にかかっているサンゴの数が、マジノハマで74個から88個に、ニシハマでは実に21個から65個へと増加していたのです。こんなにたくさんのサンゴがかかっており、しかも増えている病気なのでとても気がかりなのですが、残念ながらまだ治療法は見つかっていません。

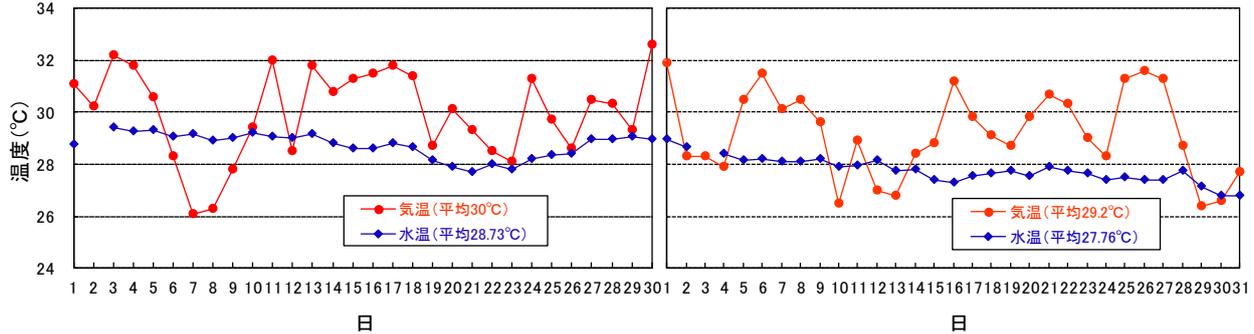
実は以前に病気のサンゴで妙な現象をみたことがあります。それはホワイトバンド病にかかったハナバチミドリイシの大きな群体で、すでに半分以上が死んでいました。その病気にかかった部分を良く見てみると、とてもたくさんのキモガ

定点観測

2016年9月



2016年10月



ニがいたのです。調べてみると、すでに死んで時間のたったサンゴの部分にはキモガニは 0 個体で、死んで間もない部分には 10cm 四方あたりで計算すると 16.6 個体おり、死亡直後の部分には 34.5 個体、今まさに病気で死にかけている部分には 66.3 個体いました。ですが、その横の健康な部分には 0 個体でした。やはり、病気の部分にたくさんのキモガニが集まっていたのです。いったい何をしているのでしょうか。てっきりサンゴの弱った部分を食べていじめているのだろうと考え、いつもすみ家として使わせてもらっているのに恩知らずだな、と思っていました。ところが、どうやらそうではないようです。2012 年にオーストラリアで研究者が調べたところ、キモガニがサンゴの病気の部分を食べることで、病気の進む速さが 3 分の 1 にゆっくりになったということです。つまり、キモガニがサンゴの病気の治療をしていたというわけです。すっかり誤解していました。また、同じ報告では、キモガニが、病気のサンゴと健康なサンゴとでは、病気のサンゴに引き付けられることも明らかにされています。つまり、キモガニが、まわりの健康なサンゴから病気のサンゴに移り住み、サンゴの悪い部分を切り取って病気の進行を遅らせているというわけです。

同じようなキモガニの密集が、1998 年の大規模白化のときに、白化したイボハ

ダハナヤサイサンゴやヒメマツミドリイシから大量に採集されたという報告があります。これも同じように具合の悪いサンゴに集まって、悪い部分を外科手術のように切り取ってもっと悪くなるのを防ぐはたらきがあるのかもしれませんが、もしそうならば、きっとキモガニは今年の大規模白化の後にも死にかけているサンゴに集まって治療をしていることでしょう。

●阿嘉島の海より

先日、あか・げるまダイビング協会の人たちにさんご礁の調査の講習をおこないました。11 月に予定している「モニタリングサイト 1000 さんご礁調査」のためですが、自分たちの海を自分たちの目で調査をすることはとても大切なことだと思います。いつも見ている場所ですので、変化があれば、それに気づくでしょうが、その変化を数字や映像などの証拠として残し、記録として蓄積していくことは、自分を含めた未来の人たちの大きな財産になるだろうと思います。今回おこなった講習は、スポット調査法についてですが、自分で自分の海を調べることに興味のある人は、ぜひ習得してみてください。もっと簡単な方法は、同じ場所を同じように写真を撮り続けることです。それでも十分に自然の変化をとらえる証拠になります。大事なことは継続することです。ぜひ実行してみてください。